

I'm going to believe that the best does. 「赤毛のアン」より

校長 桑野 啓子

12月が近づくとつれて彩都の丘の空気も一層冷たく感じられます。11月後半にかけて、発熱等の体調不良の子どもたちも多く、学園閉鎖を行うことになりました。急な閉鎖やオンライン授業のお知らせにも、保護者のみなさんにはご理解を賜りまして大変ありがとうございました。毎日ご家庭での丁寧な健康観察や登校後の健康チェックによりますと、子どもたちの体調も徐々に落ち着きを見せてきたようです。引き続きのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、「赤毛のアン」をお読みになった方もおられることと思います。過日、新聞に掲載された「わたしを作った書物たち」の中で、作家の川上弘美さんが「赤毛のアン」について書かれている記事を読みました。「赤毛のアン」は、カナダの作家モンゴメリによる11作にわたる長編小説です。わたしは7年生のときにアンに出会いました。夏休みにシリーズをすべて読み終えたことも鮮明に覚えています。アンは、緑色の切り妻屋根をした「グリーンゲイブルズ」に引き取られます。カナダのプリンスエドワード島の大自然のもと、明るく前向きな考え方で周りの人にかかわっていきます。そして大人になって、一度は教職につきます。子ども時代が終わっても、その先には長い「その後の人生」が待っているということも描かれています。アンが様々な出来事を経て成長していくことが、当時のわたしにも想像できたように思います。人生の曲がり角の向こうには何があるか、だれにもわからないけれど、それでもなお、毅然とした態度で前に進もうとする最終章でのアンの言動が特に心に残っています。

I don't know what lies around the bend, but I'm going to believe that the best does. 曲がり角をまがった先になにがあるのかは、わからない。でもきっといちばんよいものにちがいないと思うの。

どんな困難なときも夢や希望を持ち続けたいものです。かけがえのない人生の中で出会った人たちと心を通いあわせることを大切にしたいものです。来週には個人懇談もございます。校内作品展もぜひごらんいただきたいです。残りの2学期末まで、子どもたちの心身の元気をご家庭のみなさんとご一緒に支えていけますよう、よろしくお願いいたします。少しはやいご挨拶となりますが、みなさん、どうぞ健やかに穏やかに新しい年をお迎えください。そして3学期もどうぞよろしくお願いいたします。